

令和6年度入学者選抜学力検査問題

小論文 (本文15ページ)

共同教育学部

教育人間科学系, 人文社会系, 自然科学系,
芸術・生活・健康系(家政分野)

9時30分—11時00分

- [注意]
1. 検査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
 2. 「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に忘れずに記入しなさい。
 3. この問題冊子には、「小論文(教育人間科学系)1頁～3頁(1問題)」、「小論文(人文社会系)4頁～6頁(1問題)」、「小論文(自然科学系)7頁～12頁(2問題)」、「小論文(芸術・生活・健康系(家政分野))13頁～15頁(1問題)」の問題がある。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は申し出なさい。
 4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入しなさい。所定の欄以外に記入したものは無効である。
 5. 教育人間科学系の志願者は、「小論文(教育人間科学系)」を解答しなさい。
 6. 人文社会系の志願者は、「小論文(人文社会系)」を解答しなさい。
 7. 自然科学系の志願者は、「小論文(自然科学系)」を解答しなさい。
 8. 芸術・生活・健康系(家政分野)の志願者は、「小論文(芸術・生活・健康系(家政分野))」を解答しなさい。

小論文(人文社会系)

問題 次の文章は、雑誌『文学』昭和九(一九三四)年一月号に掲載された、物理学者・随筆家・俳人である寺田寅彦てらだ とらひこの「徒然草つれづれぐさの鑑賞」というエッセイの一節である。なお、『徒然草』は吉田兼好けんこうが著した十四世紀成立の随筆である。この文章を読んで後の問い(問1, 問2)に答えよ。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(寺田寅彦「徒然草の鑑賞」による。本文は『寺田寅彦全集』より。なお設問の都合で原文を一部省略・改変したところがある。)

注1 いもがしら＝里芋の地下茎。

注2 盛親僧都＝『徒然草』第六十段に登場する人物。万事自由に振る舞う変わり者であるが、人に嫌われることがなかった。

注3 半可通＝未熟なのにいかにも通人らしくすること。また、そのさまやその人。

注4 スノビズム＝上品ぶって、教養があるようなふりをする生活態度。

注5 足ることを知る＝古代中国の思想家老子の言葉を踏まえた表現で、欲深くならずに分相応のところで満足することができるという意味。

注6 諸縁を放下すべき＝『徒然草』第百十二段に使用されている表現で、一切の俗縁を捨て去るべきだという意味。

問 1 波線部「そういう諸君の現在していることの予報がその『徒然草』にちゃんと明記してある」とあるが、ここにはどのような皮肉が込められているか。100字以内(句読点を含む)で説明せよ。

問 2 著者寺田寅彦は下線部「十四世紀の日本人に比べて二十世紀の日本人はほとんど一歩も進んでいない」と述べている。これを参照したうえで、十四世紀の日本人に比べて現在の二十一世紀の日本人は「一歩も進んでいない」とあなたは考えるか。具体例をあげながらあなたの考えを800字以内(改行による空白、句読点を含む)で述べよ。